

群馬県 精神保健福祉協会だより

平成25年12月27日 発行 第21号

事務局
群馬県こころの健康センター内
379-2166 前橋市野中町368番地
TEL 027-263-1166
FAX 027-261-9912



| | |
|---|-------------------|
| ◇巻頭言 「こころの健康社会」と 精神保健福祉協会 ……1 | ◇事業報告 定期総会 ……5 |
| ◇寄稿 誰も自殺に追い込まれることのない 社会の実現を目指して～群馬県の自 殺対策の5年間の振り返り～ ……2 | 表彰式 ……5 |
| ◇団体会員からの近況報告 精神保健福祉ボランティアやよい会 ……4 | 講演会 ……6 |
| | スポーツ大会 ……6 |
| | こころのふれあい・バザー展 ……7 |
| | こころの電話相談 ……8 |
| | ◇事務局インフォメーション ……8 |

巻頭言

「こころの健康社会」と精神保健福祉協会

群馬県精神保健福祉協会会長
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学 教授 福田 正人



■国民病としての精神疾患

精神疾患は2013年度から、医療法にもとづく5疾病のひとつに指定され、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病とならぶ社会的に重要な国民病として位置づけられることになりました。

その背景のひとつは、精神疾患が多いということです。2011年に発表されたEUの推計では、一般人口における1年有病率として38.2%という驚くべき数字が報告されています。こうした精神疾患による社会的損失の年8000億ユーロは、人口が1/4の日本にあてはめると年25兆円に相当します。

もうひとつは、社会的重要性が高いということです。世界保健機関WHOが疾病の社会的重要度の指標としている障害調整生命年（disability-adjusted life years, DALY）において、先進国では精神疾患がトップです。DALYは、病気により失う命の年数（years of life lost, YLL）と、病気にもとづく生活障害を年数に換算したもの（years lived with disability, YLD）を合計して、病気が健康におよぼす影響をひとつの指標で表したもので、各国の政策立案の際に参考にされています。

精神疾患がDALYのトップになる理由は、ひとつにはうつ病による休職のように生活への影響が精神疾患では大きいこと、もうひとつは精神疾患の多くが20

歳代以下の若い年代で発症するということによるものです。そのため、YLDの比重が大きくなります。

■「こころの健康社会」の実現をめざして

こうしたことから、精神疾患は社会全体で取り組む課題となりました。多くの方が受診に到る国民病としての精神疾患というだけに留まりません。自殺・虐待・ひきこもり・いじめ・路上生活など多くの社会問題の基礎には、こころの健康の問題があります。さらに、多くの方が心の悩みやストレスを抱えています。そうしたこころの健康について、社会として考えていくことが求められる時代になったと言えます。

住民が体も心も健康であることは、その社会が発展していく基盤です。国民の立場からは、体も心も健康であることは基本的な権利とすることができます。そうした社会としての視点からこころの健康を考え、住民のこころが健康である社会を目指す取り組みが求められています。そうした考え方を表す言葉が「こころの健康社会」です。

このような取り組みこそが、精神保健福祉協会に求められる役割です。医療だけでなく福祉も保健も、病気にまで到らなくても心の悩みや困難も対象にして、個人としての取り組みとともに社会の仕組みとしての取り組みも含めて考えていくことが必要になっています。

■精神保健福祉協会の将来像

現在、協会の会員は295名です(個人246、団体49)。上で述べた大きな目標をこの精神保健福祉協会が担えるようになるかは、今後の発展にかかっています。各県の精神保健福祉協会は岐路にあるとされています。活動が社会から評価されて順調に会員を増やしている協会があるいっぽうで、会員の確保が思うにまかせずに活気をなくしている協会もあるそうです。

群馬県精神保健福祉協会がこれまで以上に元気に活動をしていくために、より明確な将来像を描いていこうという話が理事会で提起されました。例えば会員について、自然な増加に任せるのではなく、積極的な会員増を働きかけていく必要があるという認識のもと、早速大勢の会員を増やしている方がいらっしゃいます。また運営については、現在は群馬県こころの健康センターの職員の方に事務局をお願いしていますが、本来のお仕事をこなしながらですので、あまり無理をお願いすることはできません。会員数が増加してくれば、新しい体制を考える必要が出てくるかもしれません。

これからの協会の姿をより具体的に相談していくことを予定していますので、会員の皆さまからもぜひ率直なご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

■今年と来年のイベント

今年から来年にかけて、全国規模のメンタルヘルスについてのイベントが3つ予定されています。山本新四郎さんが実行委員長を務める「第14回 精神保健福祉ボランティア全国大会」(2014.6.27. 伊香保)、浅見隆康さんが事務局長を務める「第19回 SST経験交流ワークショップ」(2014.7.25～26. 前橋)、厚労省と日本精神保健福祉連盟が主催する「第63回 精神保健福祉全国大会」(2015.10. 前橋(予定))です。

こうしたイベントに協会としても協力することを通じて、群馬県内の精神保健福祉のネットワークがさらに発展するきっかけとなることを期待したいと思います。

最後になりましたが、2002年の本協会の設立に中心となってご尽力され、11年間にわたって会長職を務められてその発展に多大な貢献をされた三國雅彦先生(現・群馬大学名誉教授)から、群馬大学の定年を迎えられたのを機に、退任のお申し出がありました。6月より私が後任を務めさせていただいております。これまで三國先生が成し遂げられましたご業績に深く感謝を申しあげますとともに、上記しましたような目標に向けて力を尽くしていくつもりでおりますので、会員の皆さまにはご協力をいただけますようお願い申し上げます。

〔事務局から H25.5.31の定期総会にて、
福田正人新会長の就任が承認されました。〕

寄稿

誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して ～群馬県の自殺対策の5年間の振り返り～

群馬県健康福祉部障害政策課精神保健室長 佐藤 和子

群馬県では、平成21年5月に、総合的な自殺対策を推進するため、自殺対策基本法や自殺総合対策大綱の趣旨を踏まえ、「群馬県自殺総合対策行動計画－自殺対策アクションプラン－」を策定し、対策を進めています。

重点的には、①相談支援体制の充実・人材育成、②自殺未遂者支援の充実強化、③うつ病等医療体制の強化、④関係機関との連携強化等に取り組んでいます。

また、地域における自殺対策力を強化することを目的に、平成21年度より自殺対策緊急強化基金を造成し、対策を推進してきました。

今年度、県では、5年間(平成21年度～25年度)の対策を振り返り次期アクションプランの策定に



取り組んでいます。そこで、①群馬県における自殺者の現状、②県民意識調査の実施結果について報告し、今後の取り組みについて述べたいと思います。

1 群馬県の自殺者の現状 (平成21年～24年の状況)

群馬県の自殺者数は、平成10年に500人を超えて以来、高い水準で推移し、厚生労働省の人口動態統計によると平成15年には562人と増加し、過去最高となりましたが、平成24年には459人と減少してきています。

1) 男女別の状況

平成9年までは男性が女性の約1.7倍となっています。平成10年から24年では、男性が女性の約2.5倍前後で推移しています。

2) 年齢階級別の状況

平成24年は男性の40歳から65歳未満、女性の65歳以上で占める割合が高くなっています。また、年齢階級別自殺死亡率から見ると、若年層(15歳から24歳)は増加傾向にあります。

3) 職業別の状況

有職者34.5%、無職者55.3%、学生、生徒2.5%、主婦7.0%等を示しています。40歳代、50歳代は「失業者」の割合が高くなっています。

4) 原因・動機別の状況

健康問題(61.7%)が最も多く、その内訳を見ると、うつ病の悩み・影響(43.2%)の割合が高く、精神疾患全体では66.5%を占めています。男性は健康問題のほか、負債、生活苦、失業、事業不振などの経済・生活問題が背景にあります。女性はほとんどが健康問題で、特にうつ病等の精神疾患の悩み・影響が大きく影響しています。

また、高齢者層は健康問題が圧倒的に多く、中高年齢層は健康問題に加え、経済・生活問題の割合が高くなっています。

原因・動機別の状況を経年で見ると、経済・生活問題は明らかな減少が見られますが、健康問題に関しては、明らかな減少とはいえない状況です。

5) 自殺未遂歴の状況

自殺未遂歴者の割合は23.2%を占め、特に女性は自殺未遂歴がある割合が高くなっています。20歳代の女性では、66.7%に未遂の経験があります。

2 平成24年度に実施した群馬県自殺対策に関する 県民の意識調査結果

こころの健康や自殺対策に関する県民の意識やこれまでの普及啓発に関する県民の認知度などを把握し、次期アクションプランに生かし、自殺対策の推進に役立てることを目的にしました。

主な調査内容は、①悩みやストレス、②自殺やうつに関する意識、③自殺の現状等の認知度(周知度)、④相談窓口の周知度、⑤自殺対策に関する意見などの内容について実施しました。

結果から、特に40歳代、50歳代の男性が相談出来る体制や、ゲートキーパー(悩んでいる人に気づき、声をかけて話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人)の育成や啓発は引き続き必要なことが示唆されました。また、うつ病のサインに気づいたときに、精神科病院への相談を身近な人にすすめても、自分自身のこととなるとためらう傾向が見られました。

相談窓口の周知は、様々な方法で行ってまいりましたが、こころの健康センターやこころの健康相談統一ダイヤルを知っている者は1割程度でした。このことから相談窓口の普及啓発や情報提供の方法に工夫が必要と思われる。

また、こころの病に対する先入観や偏見をなくし、早期に受診できる環境づくりへの取り組みが必要と思われる。

3 まとめ

平成21年度に地域自殺対策緊急強化基金が造成され、地域の実情を踏まえて、県関係者、市町村、民間団体等に協力をいただき連携を図りながら実施してきました。

次期アクションプランでは、地域の多様な機関・団体等との連携・協力を確保しつつ、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現や住みやすい社会を目指し、一人ひとりが主体となって、県全体で自殺対策を推進していきたいと考えています。

群馬県の自殺者は、年々減少していますが、全国から見ると上位に位置しているため、第2次のアクションプランの取り組みが正念場と捉えています。



団体会員からの近況報告



精神保健福祉ボランティア『やよい会』

会長 佐藤 明子

1. 設立年月日 平成15年4月1日
 2. 会員数 48人
 3. 設立目的
精神障害者がその地域で、当たり前で日常生活が送れるよう支援し、そのための啓発活動を行う。
 4. 活動内容
 - ①毎月の継続事業
地域活動支援センターや就労継続支援B型事業所等でお手伝い（すまいる他4施設）
 - ②サロンの開催
月1回、北公民館での生活相談、料理、手芸、お花見、クリスマス会、旅行等を開催
 - ③活動収益事業
群馬県共同募金会、イオン幸せの黄色いキャンペーンに参加、フリーマーケット等
 - ④高崎市ボランティアグループ連絡協議会、高崎市民公益事業等に参加、各種事業に参加
 - ⑤例会の開催
月1回、ハーモニーケアセンター
 - ⑥関係団体との連携
社会福祉法人プライム、家族会、ポプラの会等
 - ⑦県事業
心の輝きスポーツ大会、こころのふれあいフェスティバル等に参加
 5. これまでの自主活動実績
 - ①H18年3月1日
こころの病を理解しよう（地域で支えていくために）入場者180人、市役所会議室
 - ②H18年11月4日
第15回全国ボランティアフェスティバル西部ブロック第21分科会のパネラーとして佐藤会長が出席、市役所会議室
 - ③H19年7月19日
先進地視察、調布市クッキングハウス（レストラン、喫茶店）30人参加
 - ④H20年9月～10月
精神保健福祉ボランティア養成講座を5日間開催、受講者40人、群馬支所
 - ⑤H21年4月～H22年2月
障害者サロン簡単料理教室を開催、計10回、受講者計131人、北公民館
 - ⑥H22年9月～10月
精神保健福祉ボランティア養成講座を5日間開催、受講者40人、労使会館
 - ⑦H23年5月10日
やよい会視察研修会、埼玉県毛呂病院、22人参加（当事者・家族会会員含む）
 - ⑧H24年2月～3月
精神保健福祉ボランティア養成講座を5日間開催、受講者78人、群馬支所
 - ⑨H24年12月～H25年3月
高崎市NPO・ボランティアフェスティバル、榛名文化会館他5会場で開催、39人参加
 - ⑩研修旅行（当事者、家族会会員等を含む）
H21年蔵の町川越、26人参加
H22年和紙のふるさと小川町、26人参加
H23年赤城フーズ・上毛新聞、28人参加
H24・25年桐生市、56人参加
 - ⑪H25年5月23日
やよい会10周年記念事業、ヘネシー澄子氏による講演会『こころの病を理解しよう』高崎シティーギャラリーコアホール、入場者218人
 6. ボランティア顕彰受賞
 - ①H22年2月13日
高崎市福祉ボランティア顕彰を受賞
 - ②H25年11月25日
群馬県福祉ボランティア顕彰を受賞
- ※ 終りに、地域の一員だからこそ出来る支援活動を日頃の生活のリズムの中で無理なく楽しくやっています。

1 定期総会

日 時 平成25年5月31日(金)午後1時00分～
会 場 群馬県勤労福祉センター

来賓祝辞 群馬県障害政策課 根岸信宏課長

議 事

- ・平成24年度の事業報告及び会計決算について
- ・平成25年度の事業計画及び会計予算について
- ・会長の交替について
三國雅彦前会長の辞任に伴う福田正人新会長の就任について

(以上議案のとおり可決されました)



2 表彰式

日時・式場 定期総会で実施

受賞者

〈会長表彰〉

田中 守 様

館林邑楽精神障がい者家族会（たけのこ会）様

〈特別功労表彰〉

砂盃 俊子 様

伊豆きよの 様

高橋 知子 様

精神保健福祉ボランティアグループれんがの会 様

フェニックスの会 様

受賞者の声

受賞者の中から「声」を寄せていただいた方々をご紹介します

砂盃 俊子 様

この度、思いもかけない特別功労表彰を拝受いたしました。心からお礼申し上げます。

子供の罹病から精神関係に関わって来ました。長い間、受け入れることが出来ず、親子共々苦しい日々を過ごしましたが、年を重ねて、少しずつ現実を直視出来るようになり、その経過の中での精神ボランティアへの参加でした。家族故の相反する思いもありましたが、多くの方々と交流を深めて行くにつれ、人との繋がりは、心からの信頼でもっと深いものになり、私にとって何より救いになりました。私こそボランティアをして頂いていると何時も感じています。この思いは家族にも伝わりつつあり、とても嬉しいです。

当事者の人達との交わりで時には握手したりすることがある時に、その手の感触にハッとします。薬の影響？体調の起伏に左右されて、外へ出る事もままならない状態

の人達が、ほんの数時間でも外へ出て、サロン等に繋がるには、どのような働きかけをすればと考える事が多いです。え〜と驚きの中での受賞ですが、これを契機に、少しずつでももっと沢山の人達と関わって楽しい交流が出来る様になれればと思っています。ありがとうございました。

伊豆きよの 様

「たんぼぼの会皆さんと共に」

去る5月31日には榮譽ある表彰をして戴き光栄に思っております。ありがとうございました。地域のボランティアとして10年余り過ぎ、良き会長さん又良き仲間の皆さん達と出会えて、そしてメンバーさん達との出会い、ひとつの事を心を通じて出来ることの楽しさ、メンバーさん達と話し、歌い、笑い、こんなにうれしい楽しい時間に皆よろこび、自然に笑顔になります。最初は、どの様に接したら良いのか戸惑いましたが、今では週に一回のサロンの日がうその様でメンバーさんから先に声をかけてくれて、私が慰められる時もあります。メンバーの人達は皆心やさしい、そして親しみの心を感じ、とてもうれしいです。この様に長くボランティアの出来るのも、又受賞することができたのも中村会長さん始めたたんぼぼの会の皆さんのおかげです。中村会長さんの元で、とても良い雰囲気です。たんぼぼの会の皆さんは頑張っています。

又今年は栃木県へ精神ボランティア全国大会に参加させて頂き、全国のボランティアの方の多さに感動し、他県の皆さんとお話が出来、すごい勉強になりました。来年は群馬県の番です。新東風の会の皆さん、私達たんぼぼの会皆で全国から来て下さる皆様をおもてなし出来る様、中村会長さんと共に私も出来る限り役に立てればと頑張っていこうと思っております。たんぼぼの会員の皆さん、ありがとうございました。これからも一緒によろしくお願い致します。

精神保健福祉ボランティアグループれんがの会

会長 宮川 眞澄 様

「受賞に感謝して」

このたび思いもかけない受賞に、会員一同と共に感謝申し上げます。私達「れんがの会」は、今から11年前に9名の会員で発足しましたが、思いや志は大きく抱いても、少人数のため歩みは遅々として思うにまかせず、会員増を願っておりました。昨年度、富岡保健福祉事務所のお力添えをいただき、養成講座を開催することが出来ました。終了後には21名の入会者で30名の会員となり、新たな年間計画と共に歩み始めることが出来たのです。本年度は、過去10年間の悲願でもありました「障がい者のためのサロン」を、富岡市の協力を得て開設することが出来たのです。

月二回（第2、第4の木曜日午前9時半～15時迄）開所初日には59名、2回目は60名の方々がサロンを訪れ、大盛況のもとに会員も楽しみ乍ら参加しています。まさに「待っていました」という心の叫びを感じ、必要としていたことを痛感いたします。

ますます複雑化する社会生活の中で、「うつ病」、「認知症」が急増しています。群馬県では今までの四疾患（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）に精神疾患が加わり五疾患となり、五事業（救急医療、へき地医療、周産期医療、災害時医療、小児医療）に今年から在宅医療が追加されたと聞きます。

私達ボランティアが、どれほどのお役に立てるか大きな課題もありますが、「支え合う絆」、「社会的ノーマライゼーション」をモットーに、予防分野を担うことが出来れば幸いと、活動を続けていきたいと考えております。

フェニックスの会

小保方 清 様

「うれしい受賞」

この度の受賞を受け、日頃よりご理解とご協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

私たちフェニックスの会は、2001年に『社会の偏見をなくしていきたい』という思いから、自分たちの経験を語り始めた当事者の会です。これまで、たくさんの出来事や出会いがあり、私たち、会の仲間も共に新たな人生を元気に取り戻しています。

受賞を受け、仲間と共にこれまでの生き方が報われたこと、心より嬉しく思っています。次の目標を探し始めました。私が「次は自己完成かな？」と言ったら、「それは哲学用語で難しすぎるね！『ありのままの姿』でいいじゃない！」、「自然に前に向いていけばね！」との声が上がりました。

群馬、東京、新潟。病院の長期入院患者さんや各講座、大学やシンポジウムなどでお話をさせていただきました。また同じような立場の友人が来所しての交流会を持ったり。そんな時には、相席で一杯やりたくなるような親しさも広がっています。そんな思いもあり、平成25年度からは、ピアサロン『ハッピータイムカフェ』を月に1度、開催しています。

病ではなく、人生や人柄を含めて自分たちはなぜ、ここにいるのか？という初発の言動が客観的に見えてきます。私たちは、自信を持ちながら深い友情の輪を広げ、結んでゆきたいと思っています。

『努力する者は報われる』と言う聖人の言葉は、私たちの試練のためにあるように……。これからもみんな努力してゆこう。

3 講演会

日時・会場 定期総会后開催（午後2時00分～）

『これからの精神保健医療福祉のあり方』

国際医療福祉大学病院教授
群馬大学名誉教授

三國 雅彦 先生



4 第13回全国障害者スポーツ大会精神障害者バレーボール競技関東ブロック地区予選会

本県代表 「やま」チーム
（群馬病院デイケアやまもも）
※ 昨年の県大会優勝チーム

日時 平成25年5月25日（土）
会場 東京都「国立代々木競技場」
結果 健闘するも初戦敗退でした

5 第30回県民スポーツ祭群馬県障害者スポーツ大会2013「群馬県心の輝きスポーツ大会」(バレーボール競技)

日時 平成25年8月2日(金) 午前10時

会場 群馬県総合スポーツセンター

ALSOくぐまアリーナ

結果

優勝: やまももA (群馬病院デイケアやまもも)

準優勝: つつじメンタルA

(つつじメンタルホスピタルデイケア)

第3位: あぞみ (前橋市地域動支援センターあぞみ)

やまももB (群馬病院デイケアやまもも)



感謝 協力団体等

審判 (主審・副審、準備等)

群馬県ソフトバレーボール連盟

ボランティア (ラインズマン・記録員・受付、準備等)

(団体)

かがやきの会 (伊勢崎市)

かんらんしゃ (伊勢崎市)

きぼう (桐生市)

たんぼぼの会 (渋川市)

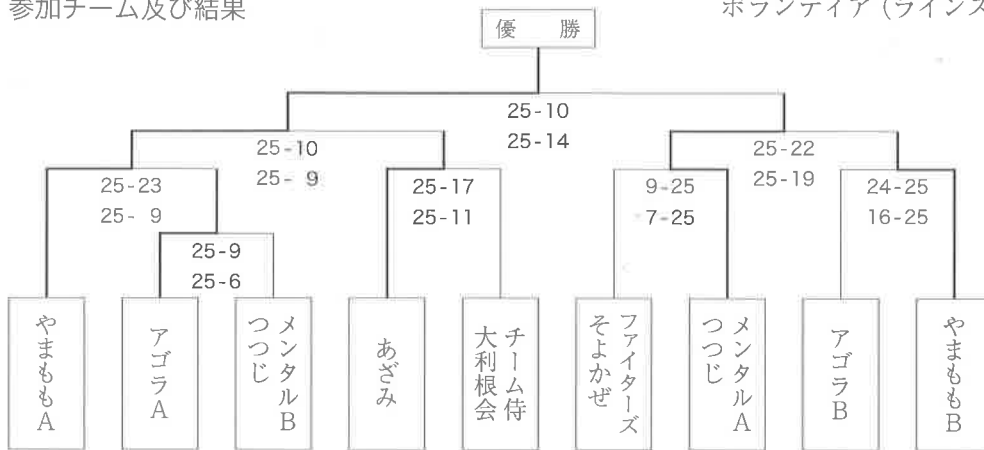
めぶきの会 (藤岡市)

東京福祉大学 (伊勢崎市)

(個人)

1名

参加チーム及び結果



6 こころのふれあい・バザー展

日時 平成25年9月7日(土)

午前10時~午後4時

会場 群馬県庁 (県民ホール・会議室)

内容 かつて別々に開催されていた「群馬県精神科病院在院者作品バザー展」、「こころのふれあいフェスティバル」が一緒になったもので、当事者・家族、保健医療福祉の専門家と市民が一堂に会して「こころの健康」をめぐる交流しあうことを目的としています。当協会は、主に(旧)こころのふれあいフェスティバル関係の運営に関わっています。

[県民ホール]

○病院や作業所など様々な団体が、日頃の活動を紹介



し、手作りの品々(菓子類・農作物・手芸品・工芸品など)を展示・販売しました。

○当事者と気軽に交流できる場として、「ふれあい広場」を設けました。ボランティアグループによる喫茶コーナーがあり、作業療法士会による作業体験(うちわ作り)などが行われました。

○ステージでは、自助グループやピアグループによる発表、当事者による沖縄太鼓演舞、群馬大学医学部フローオーケストラによるミニコンサート、精神保健福祉士会によるパロディー劇が開催されました。

[会議室]

・当事者や家族によるピア相談が行われました。



主催 群馬県・群馬県社会福祉協議会・日本精神科病院協会群馬県支部・日本精神科看護技術協会群馬県支部・群馬メンタルヘルスネットワーク・群馬大学・群馬大学大学院神経精神医学教室・群馬県精神保健福祉士会・群馬県作業療法士会・群馬県精神保健福祉協会

7 こころの電話相談（中間報告）

平成25年度は、3回実施します。

感謝 協力団体（相談員を派遣）

- 第1回 平成25年 9月29日（日）
10:00～15:00 相談件数20件
- 第2回 平成25年11月17日（日）
10:00～15:00 相談件数 5件
- 第3回 平成26年 2月16日（日）
10:00～15:00 （予定）

群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学教室
日本精神科病院協会群馬県支部
群馬県臨床心理士会
群馬県精神保健福祉士会
群馬県こころの健康センター

事務局インフォメーション

第14回精神保健福祉ボランティア全国大会 inぐんま 開催

「第14回群馬県精神保健福祉ボランティア全国大会 inぐんま」が開催されます。
当協会は、後援団体となりました。

主 催 群馬県精神保健福祉ボランティアの会「新東風の会」全国大会実行委員会
日 時 平成26年6月27日（金）午前11時00分から午後8時30分
会 場 伊香保温泉ホテル木暮

「精神保健福祉ボランティア全国大会」は第1回の神奈川大会に始まり、ほぼ毎年開催し、群馬大会は14回目になります。精神に障がいを持ちながらも地域で暮らし、自分らしく生きたいと願っている多くの当事者・家族の人達の声に応じ、「障がいがあっても偏見と差別の無いごく自然でごく当たり前で暮らせる地域社会づくりを」と地域の住民がグループを作って活動しているのが「精神保健福祉ボランティアグループ」です。ですから、この群馬大会の参加対象者は当事者・家族・ボランティア・専門職を含めた関係者など「精神に障がいを持つ人たちの生活の質の向上と地域で心豊かに暮らしていけるために何が出来るか、何をやるべきか」ということに興味のあるみなさんに参加いただける大会です。

さて、どんなに障がいがあっても人間らしく生きたい。これは人間としての基本的な権利です。彼らを持つまじめさや優しさや純粋さは、私達ボランティアに心の温かさを伝えてくれます。しかしながら、精神障がい者とその家族は、周囲から正しく理解されないことが多く、偏見と差別に苦しんでいます。そして、精

神障がい者政策、社会資源の充実、精神保健など、どれも他の障がいと比較しても大変遅れており、重要な課題と考えています。

私たち、群馬県精神保健福祉ボランティアの会「新東風の会」の会員は心をひとつにして、この大会を通じ、精神障がい者が、地域で安心して生活のできる世の中を願い、多くの人々に精神障がい者への理解が進むことを期待し、そして開催後もこの大会を生かせるよう、多くの関心のある関係者と連携して活動を活発にしていきたいと考えています。皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この大会の開催にあたり、多くの行政・団体・機関にお世話になり、心から感謝とお礼を申し上げます。

多くの皆さんの大会への参加を心からお待ちしております。



「第31回群馬県こころの県民講座」(県民カレッジ連携講座)開催
 司法精神医療の過去・現在・未来 ～心神喪失者の社会復帰を進める～

「第31回群馬県こころの県民講座」が開催されます
 群馬県こころの健康センターと当協会の共催です。



～ 講演のご紹介 ～

新聞やメディアの情報で、殺人や放火などの重大事件があった場合、精神疾患により加害者の刑事責任能力を問えないと報道されることがあります。このことは、加害者が「心神喪失」や「心神耗弱」と認定され、不起訴処分となったり、公判で無罪あるいは減刑になることを意味しています。

今回の講演では、他人に危害を加えた精神障害者の処遇と治療の現状について、分かりやすくお話ししていただきます。

裁判員制度も始まり、県民にとっても身近な話題となりつつあります。

この機会にわが国の司法の仕組みを知り、このような精神障害者と社会はどう向き合っていくべきかなど、一緒に考えてみたいと思います。

日 時 平成26年2月9日(日)
 午後2時00分～4時00分
 会 場 群馬会館ホール
 講 師 群馬県立精神医療センター院長
 武井 満 先生
 対 象 県民のみなさま
 定 員 400人(先着順)
 申込方法 下記申込書に記入の上、郵送または
 FAXでお申し込みください。
 申込期限 平成26年2月3日(月)まで

定員を超えた場合のみ、平成26年2月4日(火)までにお断りのご連絡をいたします。

申込み・問合せ先

こころの健康センター企画研修係
 〒379-2166 前橋市野中町368

電話 027-263-1166 FAX 027-261-9912

第31回こころの県民講座2/9(日) 参加申込書

こころの健康センター
 企画研修係あて

(送付状不要)

FAX 027-261-9912

下記に参加希望者をご記入ください

| | |
|------------------|--|
| 申 込 者 代 表 者 名 | |
| 所 属 又 は 住 所 | |
| 電 話 番 号 | |

| お 名 前 | ご 職 業 |
|-------|-------|
| | |
| | |
| | |

個人でお申し込みの場合、申し込み代表者のご記入は不要です。
 お送りいただいた個人情報は、当講座以外の目的には使用しません。

会 員 募 集

群馬県精神保健福祉協会は、県民の精神保健福祉の向上を目的として活動しています。
 会の活動に関心のある個人や施設・団体等の入会申込みをお待ちしています。
 入会は、いつでもお受けしています。

会 費

- 1口 1,000円 入会金は不要
- 個人会員（個人で入会の場合） : 年1口以上
 - 団体会員（施設・団体等で入会の場合） : 年3口以上

入会を
お待ちしております

入会申込

「入会申込書」に御記入の上、ファックスまたは郵便で、当事務局へ御提出ください。

〔 会 長 福田正人（群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学教授）
 会員数 平成25年11月30日現在 個人会員246名、団体会員49団体 〕

入 会 申 込 書

群馬県精神保健福祉協会への入会を申し込みます。

平成 年 月 日

群馬県精神保健福祉協会長 様

| | | |
|----------------|----------|--|
| 団体名又は 勤 務 先 | | <p style="text-align: center;"><u>会員の種類</u></p> <p style="text-align: center;">(該当を○で 囲んでください)</p> <p>・個人会員 〔 職 種 〕</p> <p>・団体会員</p> |
| ふりがな | | |
| 氏 名 (代表者名) | | |
| 住 所 | 〒 | |
| 電 話 番 号 | () | |

